甲州西郡十日市場と云所に、德嚴と云半俗有、此者甲州市川の文珠へこもり、夢想に八卦を相傳仕りたりとて、在所にて占をよく致す、長坂長閑今の德嚴を崇敬して、右判の兵庫が知行を、德嚴に申てとらせんと約諾す、〇中略長坂長閑右の德嚴が事を披露申す、信玄聞召、占は足利にて傳授かと尋させ給ふ、長閑承り、八卦にて候が、市川の文珠へこもり、夢想相傳とて、種々上手の奇特有、證據を半時ばかり申上る、信玄公聞召、長閑能承れとて宣は、八卦と云本は、吾終に見たこともなけれども、推量に云、其本に眞に出たる文字すくなくとも、二三百もなきことは有まじ、物をよむにも、眞はむつかしき物ぞ、又夢は定なき者也、龐相なるたとへに、人に逢ても早く別たるは、夢ほど逢たと云者ぞ、然ばむつかしき學問をめにもみえぬ文殊の夢に相傳は、皆僞の至也、僞を云盜人に、將たる者は對面せぬ者也、其ごとくなる者は、心きたなき故、當座奇特有とても、貪慾心深く、金銀を惠まば、惡をも吉といひ、引出物あたへねば、吉をも惡と云者也、神變奇特もさぞあるらん、さなくば愚人も何ぞ用ること有まじ、放下と云者は、矢の篦を二丈も三丈もつぎ、第一の上に茶椀を置、己がはなのさきにのせくるくとまはせども、其茶椀落ざるやうにする、是奇特なれども、本意に達せねば何の用にも立ぬをもつて、放下とは名付たり、文珠に夢想相傳の八卦など、云、皆是放下の一類なり、面々可存、但吾朝菅丞相、唐の無準へ參得は、是聖人の勢なり、聖人は過去現在未來三世に通ずる、それを名付て佛と申、又盜賊は現在計に屈託して邪欲有故、天道の惡みをうくる、人間六十二年の身をたもちかね、さまをかへ色をかへ心をぬくは盜人也、邪智深して術をなし、口にも虛言を實のやうにいひ、見ておもしろふ、聞てきゝごとに取なす盜人を放下と名付、一として實の用に不立、再如此者の事、誰にても我前にていはんは、曲事たるべしとのたまへば、長閑赤面して無面目仕合也、

易博士

〔日本書紀十九欽明〕十四年六月、遣内臣闕名使於百濟、〇中略別勅醫博士、易博士、曆博士等、宜依番上下、